

## 「青森県作業療法研究」投稿ならびに執筆規定

### 投稿規定

#### 1. 投稿内容について

本誌への投稿は、青森県における作業療法の学術的発展に寄与する論文として、「研究論文」（原著）、「短報」、「症例報告」、「総説」、「実践報告」（以下、論文）の投稿を随時受け付けます。ただし他誌に発表された論文、または投稿中の論文はお断りします。「症例報告」は日本作業療法士協会事例報告登録制度への登録は可能です。このほかに、新刊図書類に関する「書籍紹介」の投稿も常時受け付けます。

#### 2. 倫理的事項について

著者は、著作権や研究対象者の人権の尊重に努めて下さい。なお、症例報告の投稿では、同意書の提出が必要です。同意書は青森県作業療法士会ホームページより入手して下さい。

#### 3. 著者について

筆頭著者は原則として本会の会員に限ります。共著者は本会会員でなくても構いませんが、作業療法士である場合は本会会員であることを条件とします。ただし、作業療法の発展に特に寄与すると学術部が認めた場合はこの限りではありません。なお著者の数は原則として5名までとし、それを超える場合は理由を記した書面を学術部に提出して、例外的採否の判断を仰ぎ、その指示に従って下さい。

#### 4. 論文の種目と長さについて 論文の種目と長さの基準は以下の通りです。

- ①研究論文（原著）：実験、調査、臨床経験、理論研究などから得られた独創的で斬新な知見を含む結果の考察および記述。論文の長さは、本文、文献、図・表合わせてA4用紙（20字×20行）32枚（仕上りは図表合わせて10頁）以内とし、図・表（白黒印刷）は本文とは別に1枚1点で10枚以内とする。
- ②短報：独創性のある所見、見解の速やかな発表を期待するパイロット的研究報告。後に詳しい「研究論文」として書くことが期待される。論文の長さは、本文、文献、図・表合わせてA4用紙（20字×20行）8枚以内（仕上りは図表合わせて4頁）以内とする。図・表（白黒印刷）は本文とは別に1枚1点で1枚以内とする。
- ③症例報告：特色のある作業療法事例報告。会員にとって示唆に富む、興味ある症例の報告。日本作業療法士協会の「事例報告書作成の手引き」に準じて作成する。本文は、「報告の目的」200字以内、「症例紹介」600字以内、「作業療法評価」800字以内、「介入の基本方針」200字以内、「作業療法実施計画」600字以内、「介入経過」1000字以内、「結果」700字以内、「考察」700字以内で、仕上りは図表合わせて3頁以内とする。図・表（白黒印刷）は本文とは別に1枚1点で4枚以内とする。
- ④総説：作業療法および作業療法関連科学の特定のテーマについて、過去の研究を概観し、将来的展望を視野においた組織的な論評および総括。論文の長さ、図・表は①に準じる。
- ⑤実践報告：特色ある作業療法実践（症例報告を含む）に焦点を当てた報告。治療手段としての活動、道具（自助具、遊具、生活用具）、情報、アイデアの紹介。論文の長さは、本文、文献、図・表合わせてA4用紙（20字×20行）24枚以内（仕上りは図表合わせて8頁）以内とする。図・表（白黒印刷）は本文とは別に1枚1点で10枚以内とする。
- ⑥書籍紹介：新刊図書類に関する書籍紹介。本文A4用紙（20字×20行）2枚以内とする。

#### 5. 執筆要領について 後出の「執筆規定」に従って下さい。

#### 6. 採否について

原稿の採否は学術部において決定します。場合により、加筆、修正をお願いすることがあります。また学術部の責任において、多少の字句の訂正をすることがあります。なお、所定の枚数を超過した論文は学術部から修正を依頼することがあります。

#### 7. 再投稿について

修正後再査読の論文は3ヶ月以内に再投稿して下さい。それを過ぎた場合は新規投稿として扱われます。

8. 校正について  
著者校正は原則として1回とします。校正は赤で行い、指定の期限内に返送して下さい。
  9. 掲載について  
投稿論文の掲載は、完成稿入稿の日付順とします。
  10. 別刷進呈について  
各論文の筆頭著者に別刷30部を進呈します。希望者には50部単位で有料別刷を作成します。
  11. 投稿の手続きについて
    - ①執筆形式の確認：後出の執筆規定にそっていることを確認して下さい。
    - ②投稿の承諾：機関誌「青森県作業療法研究」投稿承諾書に記入し、必ず原稿に添付して下さい。また症例報告の場合は、同意書に署名・捺印し同封して下さい。投稿承諾書・同意書は青森県作業療法士会ホームページより入手して下さい。
    - ③原稿の部数：計2部を提出して下さい（1部は複写で可）。電子ファイルの提出の場合は、1部のみで構いません。提出された原稿、図・表等はお返ししません。
    - ④原稿の送付：原稿は、簡易書留で下記宛に郵送するか、電子ファイル化（ワード、パワーポイント、PDFファイルなど）して下記アドレスまで送信して下さい。  
〒036-8564  
青森県弘前市本町66-1  
弘前大学大学院保健学研究科  
青森県作業療法士会 学術部担当理事 田中 真  
Mail : tanakam@hirosaki-u.ac.jp
- \*掲載された論文の著作権（著作人格権、著作財産権）は著者に帰属します。著者は一般社団法人青森県作業療法士会へ、同本会が公益事業に役立てるために行う掲載論文の複写・複製・翻訳・翻案・要約および第三者への転載許諾の権利を譲渡するものとします。

## 執筆規定

1. 原稿は、MS-Wordで作成し、A4横書き20字×20行（印刷の向きは縦）に書式設定して下さい。
2. 論文は、表題、著者名、要旨、本文と文献、図・表から成るものとします。1頁目は表題、2頁目は著者名、3頁目は要旨となります。本文は1～3頁目とは別に頁を改め、頁数を1頁より始めて下さい。
3. 表題頁には、論文種目（研究論文、実践報告など）と表題のみを記載し、著者名頁には筆頭著者および共著者名（5名まで、「投稿規定」3を参照）と所属、筆頭著者の所属住所とE-mailアドレス等を記載して下さい。
4. 全ての論文に300字以内の要旨をつけて下さい。
5. 論文の本文は、原則として、「はじめに」、「方法」、「結果」、「考察」、「結論」が明らかになるように書いて下さい（研究論文の場合）。症例報告では、「報告の目的」、「症例紹介」、「作業療法評価」、「介入の基本方針」、「作業療法実施計画」、「介入経過」、「結果」、「考察」の小見出しをつけて構成して下さい。また、原稿には頁番号をつけて下さい。
6. 文章表現は以下の点に留意して下さい。
  - ①現代かなづかいとし、数字は算用数字、数量は国際単位系（SI単位）記号を用いる（例；m, mm, ml, kgなど）。句読点は「、」（全角）を用いる。
  - ②外国人の人名には原語を用い、活字体で明瞭に書く。
  - ③術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて（ ）内に原語を入れる。日本語化しているものはカタカナとする。
  - ④略語を用いる場合は初出時にフルスペル、もしくは和訳も併記する。
  - ⑤特定の機器などを本文中に記載する場合は次の規定に従う。  
一般名（会社名、商品名）と表記。  
例）三次元動作解析装置（Oxford Metrix社製、VICON140）

## 7. 倫理上の配慮について

論文として掲載される研究は、調査・研究の倫理的原則に従ったものである必要があります。投稿者は研究対象者の権利を尊重した表現を行う義務があります。学術部は、必要に応じてこれらの事項に関する証明を投稿者をお願いすることがあります。なお倫理審査を経ている場合は、承認番号を記載して下さい。

## 8. 引用・転載について

論文作成にあたっては、著作権についての配慮を行って下さい。論文中に他の著作物からの引用を行うときには、その出典を明記して下さい。また、引用の範囲を超えた「転載」には、著作権者やその著作物の出版社の許諾が必要です。論文が掲載されるために必要となる「転載」については、投稿者が責任を持つこととします。

## 9. 文献リストは引用文献のみとし、引用順に配列し通し番号をふって下さい。本文中および要旨文中の引用箇所には上付き数字で文献番号を記載して下さい。著者名は、5名までを記載し、それ以上は「他」とすることを原則とし、雑誌で欧文誌の場合は、“Index Medicus”による略称、和文誌の場合は、雑誌独自に定める略称あるいは正式名として下さい。

## ①雑誌

著者名：論文表題。雑誌名 巻数：引用頁（最初頁-最後頁、1頁のみの場合はその頁）、発行年（西暦）。

## ②単行本（単独あるいは共同執筆の場合）

著者名：書名。版数、出版社、発行場所、発行年（西暦）、引用頁。

## ③単行本（分担執筆の場合）

著者名：論文題名。編者名（編）、書名、出版社、発行場所、発行年（西暦）、引用頁。

## ④インターネット

Webページのタイトル、URL、アクセスした日付

## &lt;表記例&gt;

- 1) 加福隆樹, 藤井浩美, 木村陽子, 藤倉美雪, 福田恵美子・他：股関節外転外旋位からの立ち上がり動作の解析。総合リハ 35：711-718, 2007.
- 2) Witt A, Cermak S, Coster W: Body part identification in 1-to 2-year-old children. Am J Occup Ther 44：147-153, 1990.
- 3) 二唐東朔, 安部紀一郎：基礎人体機能学。第2版, 廣川書店, 東京, 2004.
- 4) 米倉豊子：内科的疾患に対する作業療法。原, 鈴木・編, 作業療法各論（リハビリテーション医学全書10）, 医歯薬出版, 東京, 1978, pp.393-406.
- 5) Pansky B: Review of gross anatomy. 6th ed. McGraw Hill, New York, 1996.
- 6) Reid J: Computer and occupational therapy. InCreek J (ed): Occupational Therapy and Mental Health, Churchill Livingstone, New York, 1990, pp.267-288.
- 7) Pinel P (影山任佐・訳)：精神病に関する医学＝哲学論。中央洋書出版部, 東京, 1990.
- 8) Cook AM, Hussey SM (上村智子・訳)：作業療法実践のための電子支援技術, Pedretti編著 (宮前, 清水, 山口・監訳), 身体障害の作業療法。第4版, 協同医書出版社, 東京, 1999, pp.583-599.
- 9) 日本リハビリテーション医学会, <http://www.jarm.or.jp/>, (2011年1月1日アクセス)
10. 図・表は次の点に留意して下さい。
  - ①図は白黒で印刷されるので、鮮明でそのまま製版できるものを準備する。ただし、カラー印刷の希望がある場合は、学術部へお問い合わせ下さい。
  - ②写真（図として扱う）は、カラー写真より白黒写真の方がきれいに仕上がる。トリミングを工夫する。
  - ③図・表はすべて表題をつけ、それぞれを本文とは別にまとめる。図は表題のほかに説明もつける。
  - ④本文中および欄外に図・表の挿入場所を明示する。
  - ⑤引用・転載の図・表は、それぞれの出典を明記する。